

須藤八千代先生 経歴・業績

経 歴

1948年、静岡県生まれ。掛川西高校から日本社会事業大学に進学。1970年より横浜市社会福祉職。3か所の福祉事務所、1か所の障害児通所訓練施設に勤務。その間、生活保護、身体障害者福祉、高齢者福祉等のソーシャルワーカーとして働く。

また1998年4月から1999年3月に、横浜市国内留学制度により日本社会事業大学大学院に在籍し修了。2001年4月、本学文学部（現教育福祉学部）社会福祉学科の教員となる。

業 績

I 著書

1. 平成6年7月「事例からみた子どもの性的虐待」北山秋雄編『子どもの性的虐待』大修館書店 29～39頁（共著）
2. 平成7年5月『歩く日——私のフィールドノート』ゆみる出版（単著）
3. 平成9年5月「福祉事務所とフェミニスト実践——ジェンダー・パースペクティブとフェミニスト・ソーシャルワークの展開」杉本貴代栄編『社会福祉の中のジェンダー』ミネルヴァ書房 18～26頁（共著）
4. 平成11年8月「横浜とホームレス問題」「法内外サービスをマネジメントする横浜方式」宮下忠子編『路上に生きる命の群——ホームレス問題の対策と提案』随想舎 262～284頁、350～353頁（共著）
5. 平成11年11月「ソーシャルワーク実践における曖昧性とゆらぎのもつ意味」尾崎新編『「ゆらぐ」ことのできる力——「ゆらぎ」と社会福祉実践』誠信書房 263～290頁（共著）
6. 平成12年10月「社会福祉と女性観」杉本貴代栄編『ジェンダー・エシックスと社会福祉』ミネルヴァ書房 94～112頁（共著）
7. 平成13年5月「グローバリゼーションとソーシャルワーク」、「ホームレス」杉本貴代栄・河野貴代

美編『新しいソーシャルワーク・入門』学陽書房 131～147頁、206～218頁（共著）

8. 平成14年3月「ソーシャルワークの経験」尾崎新編『「現場」のちから——社会福祉実践における現場とは何か』誠信書房 24～54頁（共著）
9. 平成16年3月「ソーシャルワーカーという生き方」杉本貴代栄・須藤八千代編『私はソーシャルワーカー』学陽書房 213～228頁（編著）
10. 平成16年4月『ソーシャルワークの作業場一寿という街』誠信書房（単著）
11. 平成16年3月「ソーシャルワーク実践の再構築——フェミニスト・パースペクティヴがもたらすもの」杉本貴代栄編著『フェミニスト福祉政策原論』ミネルヴァ書房 135～155頁
12. 平成17年2月「相談の女性学」、「相談の原点」須藤八千代・土井良多江子・湯澤直美・景山ゆみこ著『相談の理論化と実践——相談の女性学から女性支援へ』新水社 6～28頁、30～50頁（共著）
13. 平成19年12月「フェミニスト・ソーシャルワーク」岡本民夫ほか編『エンサイクロペディア社会福祉学』中央法規 990～993頁（共著）
14. 平成19年2月『母子寮と母子生活支援施設のあいだ』明石書店（単著）
15. 平成21年10月「ソーシャルワーカーを導く知」杉本貴代栄・須藤八千代・岡田朋子編著『ソーシャルワーカーの仕事と生活』学陽書房 24～29頁（共著）
16. 平成21年10月「社会人女子学生をとおしてみる大学院の現在」須藤八千代・渋谷典子編『女性たちと大学院——社会人が大学の門をくぐるとき』生活書院 16～50頁（共著）
17. 平成22年8月『増補 母子寮と母子生活支援施設のあいだ』明石書店（単著）
18. 平成24年10月「ソーシャルワークと人生経験」『QアンドA ソーシャルワーク実践』明石書店 106～118頁
19. 平成24年10月「フェミニスト・ソーシャルワークとは何か——21世紀フェミニズム理論に伴走する実践と理論」杉本貴代栄編著『フェミニズム

- と社会福祉政策』ミネルヴァ書房 109～129頁
20. 平成25年3月(刊行予定)須藤八千代・宮本節子編著『婦人保護施設と女性』明石書店

II 論文

1. 昭和60年10月「精神障害者処遇と地域作業所」『精神医療56』14巻3号 悠久書房 31～38頁
2. 昭和63年7月「精神保健法と福祉」『精神医療67』17巻2号 悠久書房 41～48頁
3. 平成11年6月「性的虐待の実態と被害者支援の現状」岡堂哲雄・関井友子『現代のエスプリ383』『ファミリー・バイオレンス』至文堂 139～150頁
4. 平成13年7月「女性と貧困」『社会福祉研究』第81号(勸鉄道弘済会) 40～49頁
5. 平成14年7月「『ドメスティック・バイオレンス』とソーシャルワーク研究——AFFILIA: Journal of Women and Social Workにおける研究の視座」『社会福祉研究』愛知県立大学文学部社会福祉学科紀要 第4巻 25～40頁
6. 平成15年3月「ドメスティック・バイオレンスとソーシャルワーク」『ソーシャルワーク研究』Vol. 29, No. 1 相川書房 10～17頁
7. 平成15年7月「『女性福祉』とフェミニスト・ソーシャルワークの連続性と断絶性——フェミニスト・ソーシャルワークの視座」『社会福祉研究』愛知県立大学文学部社会福祉学科紀要 第5巻 9～18頁
8. 平成18年3月「ソーシャルワーカーの成長に関する研究の方向性と課題」『聖隷クリストファー大学社会福祉学部紀要』No. 5、1～15頁(共著)
9. 平成20年3月「技術習得に関するベナーモデルのソーシャルワーカーへの適用」同書No. 68～79頁(共著)
10. 平成21年3月「精神保健福祉領域におけるソーシャルワーカーの技能習得に関する発達段階モデル第1報——臨床経験2年未満のワーカーのデータ分析より」同書No.7、106～117頁(共著)
11. 平成21年3月「精神保健福祉領域におけるソーシャルワーカーの技能習得に関する発達段階モデル第2報——臨床経験10年未満のワーカーのデータ分析より」同書No. 7、120～131頁(共著)
12. 平成20年7月「Biestek 研究その1——2つの視角」『社会福祉研究』第10巻 愛知県立大学社会福祉学科紀要 23～30頁
13. 平成21年7月「ソーシャルワーカーの成長と発達——精神保健福祉領域における技能習得に関する発達段階モデル第3報」『社会福祉研究』第11巻 愛知県立大学社会福祉学科紀要 23～31頁(共著)
14. 平成22年3月「ソーシャルワーカーの熟達——看護、教育における研究とDreyfusモデル」『社会福祉研究』愛知県立大学教育福祉学部論集』第58号 23～31頁
15. 平成22年7月「『女性福祉』論とフェミニズム理論——社会福祉の対象論を手がかりに」『社会福祉研究』第12巻 愛知県立大学社会福祉学科紀要 25～32頁
16. 平成23年7月「婦人保護施設の現在とその理論的検証」『社会福祉研究』第13巻 愛知県立大学教育福祉学部社会福祉学科紀要 11～23頁
17. 平成25年2月「男女共同参画社会と相談実践——ドメスティックバイオレンスを軸として」『教育福祉学部論集』第60号 愛知県立大学教育福祉学部

III その他

愛知県精神医療審査会委員、名古屋市委託：総合相談窓口のあり方研究会座長、相談事業に関する連携と協働のあり方研究会座長、DV被害者支援の総合的あり方研究会座長、名古屋市児童虐待スーパーヴァイザー、東京都婦人保護施設評価委員等